

くすの木タイム学習指導案

第5学年

I 単 元 広がれ！うんまいおきりこみ

II 考 察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

おきりこみから見た前橋市への関心と、取組への自信をもち、新たな課題に自ら取り組む態度

①知識・技能

おきりこみから見た前橋市の特徴・よさ比較したり関連付けたり多面的にみたりする思考スキル

②思考力・判断力・表現力等

おきりこみから見た前橋市についての課題を見出し解決する力

(2) 学習内容

・学習対象：おきりこみ

・学習事項：おきりこみから見た前橋市の特徴・よさ 思考スキル

他者と関わることと、物事を多面的に俯瞰して見ることの大切さ

おきりこみから見た前橋市と自分とのつながり 自分自身の取組への成果の実感

(3) 本単元の学習とその価値

本単元は、子どもたちが、おきりこみの調理・試食体験や、地域で食べられてきた背景と地場産の食材の調査、献立の開発をして捉えたおきりこみの特徴・よさを発信する学習である。その価値は以下のとおりである。

おきりこみとは、小麦で作った幅広の麺を、生麺のまま様々な野菜とともに煮込んだ、前橋市を中心とした群馬県の郷土料理である。前橋市を中心とした地域では、日照時間の長さや水はけのよい土質、空っ風による乾燥等の風土により小麦や野菜の生産が盛んに行われてきた。おきりこみは、そうした地場産の小麦や野菜をたくさん食べられる健康食であり、養蚕等で忙しい時期でもさっと手軽に作れる庶民の味として広まった。地域や家庭によって具材や味付け、呼び名が異なり、独自の文化があり、地域の名産として一翼を担っている。一方で、近年の生活様式の変化により、おきりこみを調理できる人が著しく減少しており、その継承が難しいという問題が生じている。そのため、平成26年に群馬県無形民俗文化財に登録され、各地でのイベントやメディアでの紹介が行われている。

子どもたちは、これまでの社会科やくすの木タイムの学習で地域への愛着をもち始めたり、地域課題へ取り組んで地域へ貢献することの充実感を感じたりしてきている。また、家庭科の学習が始まり、食への関心をもち始めている。さらに、おきりこみが給食の人気メニューとなるくらいおきりこみを好んでいる。このような子どもたちにとって、地域の名産のおきりこみが今後姿を消す可能性のあるこの問題は、追究する必要感のある問題である。

前橋市の歴史や農業、気候・風土、人々の暮らしの影響を大きく受けたおきりこみを追究する

ことは、前橋市について多面的に学ぶことになり、物事を俯瞰して見ることにつながる。また、調理・試食体験や地場産の食材の調査を必然的に繰り返すことになり、食生活改善推進委員や野菜ソムリエ、学校栄養士や友達と協働して取り組む経験を重ねることができる。さらに、おきりこみの作り方や発信方法を検討する中で、具材や味付け、リーフレットや動画等の様々な面から分析的に見ることを繰り返すことができる。そして、解決が難しいこの問題の解決に向けて他者と協働的に関わり、その成果を共有することは、学級集団や地域の一員としての自己有用感の実感を得ることになる。

これらの探究を通して、子どもたちは、おきりこみから見た前橋市への関心を高め、取組への自信を得て、前橋市への愛着を高めていく。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「ふるさと再発見プロジェクト」において、子どもたちが前橋市の商店街の店や施設の手伝いをしながら商店街の人と繰り返し関わり、商店街の人のよさを発信するといった、商店街の人の立場から見た前橋市への愛着を高める学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、4年「めざせ！心の親ぜん大使」において、目が不自由な方との関わったり、目が不自由な状態の疑似体験をしたり、目の不自由な方やその生活を支えるものの特徴・よさについて発信したりすることで、相手の状況や思いを考えて他者と関わることの大切さを体験的に学んできた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

① 目の不自由な方との関わりや目の不自由な状態の疑似体験をして、目の不自由な方やその生活を支えるものの特徴・よさを理解してきている。このような子どもたちが、おきりこみから見た前橋市の特徴・よさを理解できるように、おきりこみの調理・試食体験や地場産の食材の調査等で専門家と情報交換できる場を繰り返し設定する。

目の不自由な方やその生活を支えるものの特徴・よさの発信に向けて、発信内容や方法をピラミッドチャートで序列化したり統合したりして選択できるようになってきている。このような子どもたちが、追究を通して得たおきりこみの特徴・よさを比較することや関連付けること、多面的に見ることができるように、ベン図やウェビング図、マトリクス、PMN等のシートを繰り返し使い、それらを使ったよさについて振り返る活動を設定する。

② 目の不自由な方やその生活を支えるものについて見出した課題について明確な根拠のある解決方法を導けるようになってきている。このような子どもたちが、おきりこみについて見出した課題について明確な根拠のある解決方法を導けるように、課題を解決した状態の具体図と、ベン図やウェビング図、マトリクス、PMN等の解決方法を可視化するシートの用意をする。

③ 目の不自由な方との関わりや目の不自由な状態の疑似体験を振り返ってもった、目の不自由な方やその生活を支えるものへの関心や、取組への自信を基に、次の課題を見出し、その解決に向けて取り組めるようになってきている。このような子どもたちが、おきりこみから見た前橋市への関心を高めたり取組への自信をもったりして、次の課題を見出し、その解決に向けて自ら取り組めるように、活動ごとに自分の取組や考えたことを振り返りプリントの用意をする。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画

※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

V 本時の学習

- 1 ねらい 班で作ったおきりこみのよさ(P)と改善点(M)を基に、改善策(N)について話し合うことを通して、「市民がより好きになり自慢したくなるおきりこみ」にする改善策(N)を多面的に見て導いている。
- 2 準備 PMNの枠を記したシート 付箋紙 「市民がより好きになり自慢したくなるおきりこみ」の具体図 振り返りプリント
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点				
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくらの作ったおきりこみは美味しかったけど、「市民がより好きになり自慢したくなるおきりこみ」には、まだ足りないな。 ・「見た目がほとんど茶色だった」のMを改善したいな。友達のPとMを聞いて、Nを見付けたいな。 <p>2 作ったおきりこみのよさ(P)と改善点(M)を班で伝え、それらを基に改善策(N)を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が見付けたPの「手軽に作れた」は、確かにそうだな。 ・図には「地場産の食材を使う」も書かれていたな。Pに加えられるな。 <table border="1" data-bbox="197 1167 826 1317"> <thead> <tr> <th>よさ(P)</th> <th>改善点(M)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・手軽に作れた ・地場産の食材を使った </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・見た目がほとんど茶色だった ・目新しさがない </td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、Nとして「ニンジンを加える」がいいと思うよ。そうすれば、Mの「見た目がほとんど茶色だった」が改善できそうだからね。それに味わってもらえる前橋市の旬の野菜が増えるね。 ・でも、Mの「目新しさがない」は改善が難しいな。 ・友達の言うように、Nとして前橋市の旬の野菜である「トマトを加える」は、目新しさがあるな。Nの「ニンジンを加える」も生かせるな。 ・図を基にいろいろな面からPやMを見付けたら、「ニンジンを加える」「トマトを加える」というNがよさそうだな。 <p>3 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Nの「ニンジンを加える」「トマトを加える」をみんなと考えられてよかったな。 ・次こそ、提案できるおきりこみになりそうだな。 	よさ(P)	改善点(M)	<ul style="list-style-type: none"> ・手軽に作れた ・地場産の食材を使った 	<ul style="list-style-type: none"> ・見た目がほとんど茶色だった ・目新しさがない 	<ul style="list-style-type: none"> ○作ったおきりこみのよさ(P)と改善点(M)を基に、改善策(N)を話し合うという本時の見通しをもてるように、「市民がより好きになり自慢したくなるおきりこみ」の具体図を提示し、課題の解決状況と本時取り組むことを問いかける。 ○話し合うNと、その根拠となるPやMを可視化できるように、PMNの枠を記したシートを用意し、前時に付箋紙に書いたPやMを貼ることを促す。 ○おきりこみの調理・試食の体験から再度PやMを見付けられるように、互いの書いたPやMを見合い、「市民がより好きになり自慢したくなるおきりこみ」の具体図と照らし合わせたりすることを促す。 ○Nを導く際に、PやMが根拠になるように、PやMを指さしながらNを話し合うことを示した話し方の手順を提示する。 ○複数のNの妥当性を考えられるように、それぞれのN同士の両立の可否を問いかける。 <div data-bbox="882 1621 1406 1816" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">作ったおきりこみの改善策(N)の根拠を複数記述したり発言したりしている。 <振り返りプリント・発言②></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○今後の追究への意欲を高められるように、導いたNと今後の取組について発言したり、再度おきりこみを作りたいという思いをもてたりしたことを称賛する。
よさ(P)	改善点(M)				
<ul style="list-style-type: none"> ・手軽に作れた ・地場産の食材を使った 	<ul style="list-style-type: none"> ・見た目がほとんど茶色だった ・目新しさがない 				

指導と評価の計画（全70時間）

目標	前橋市の郷土料理であるおきりこみの調理・試食体験や、食べられてきた背景と地場産の食材の調査、献立の開発、それらの発信を通して、前橋市の歴史や農業、気候・風土、人の暮らしの様子といった、おきりこみから見た前橋市の特徴・よさを理解し、自分のふるさと前橋市を見つめ直し、愛着をもつ。			
評価規準	① 知識・技能 おきりこみの作り方や、おきりこみが食べられてきた背景と地場産の食材の調査、献立の開発、それらの発信を通して、前橋市の歴史や農業、気候・風土、人の暮らしの様子といった、おきりこみから見た前橋市の特徴・よさを理解している。 おきりこみの作り方や、おきりこみが食べられてきた背景を比較することや関連付けること、多面的に見ることができる。 ② 思考力・判断力・表現力等 おきりこみについての課題を設定し、おきりこみについて調べ、調べたことを根拠として解決方法を導いたり実践したりしている。 ③ 学びに向かう力・人間性等 おきりこみから見た前橋市への関心を高め、取組への自信をもち、前橋市への親しみを感じている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞
出会う	2	○都道府県庁所在地別魅力度ランキングの上位の都市の名産と、最下位の前橋市の名産について話し合う。	○おきりこみについて知りたいという思いがもてるように、前橋市の観光パンフレットや前橋市の郷土料理資料の用意をする。	◇おきりこみについてさらに知りたいことを記述している。 ＜学習プリント③＞
	7	○専門家とおきりこみ作りをしたり、学校栄養士や校内児童に給食や家庭でのおきりこみについてインタビューをしたりする。	○おきりこみの継承の問題に気付けるように、おきりこみが無形文化財に登録され、おきりこみを調理できる人の減少を表す資料の用意をする。	◇おきりこみを取り巻く問題について記述している。 ＜振り返りプリント①＞
さぐる・まとめる	2	○おきりこみについての気付きや疑問を話し合い、課題をつかむ。 課題：市民がより好きになり自慢したくなるおきりこみとは、どのようなものだろう。	○おきりこみを名産としている割に、市民の認知度や調理できる人が激減している状況を改善する必要性をもてるように、今までに得たおきりこみの特徴・よさを振り返る「意外だったこと」の視点を提示する。	◇今までに得たおきりこみから見た前橋市の特徴・よさを基に、これから取り組みたいことを記述したり発言したりしている。 ＜学習プリント・発言②＞
	2	○市民がより好きになり自慢したくなるおきりこみの献立の開発をする計画を立てる。	○課題を解決した状態を具体的に想定できるように、市民がより好きになり自慢したくなるおきりこみの特徴・よさを整理してまとめる模造紙の用意をする。	◇おきりこみから見た前橋市の特徴・よさを記述したり発言したりしている。 ＜学習プリント・発言①＞
	3	○複数の家庭や店におきりこみの作り方や地場産の食材についてのアンケートをし、結果を集計する。	○おきりこみの作り方の多様性に気付けるように、「味付け」「食材」の観点を基にアンケート結果を整理する学習プリントの用意をする。	◇地域によるおきりこみの作り方の特徴や、家庭で人気の作り方を記述している。 ＜学習プリント①＞
	6	○班ごとにおきりこみのテーマを決め、食材や味付けについて調べたり選んだりして、調理をする。	○伝統的な味や若者向けの新しい味等のテーマに合った食材や味付けを比較しながら選べるように、課題の解決した状態の具体図と、Y・X・Wチャートの用意をする。	◇テーマに合わせてY・X・Wチャートを作り、食材や味付けの根拠を記述したり発言したりしている。 ＜学習プリント・発言①＞
	6	○各班のおきりこみを食べた感想を伝え合い、班で作るおきりこみの作り方を見直し、再度調理する。 （本時2／6）	○今までに得たおきりこみから見た前橋市の特徴・よさを基に、作り方の改善策を導けるように、課題の解決した状態の具体図と、PMNのシートの用意をする。	◇作ったおきりこみの改善策(N)の根拠を複数記述したり発言したりしている。 ＜振り返りプリント・発言②＞
	10	○各班のおきりこみを食べた感想を伝え合い、班で作るおきりこみの作り方を修正し、給食への提案資料を作って提案する。	○給食への提案資料に載せるおきりこみから見た前橋市の特徴・よさを選べるように、課題の解決した状態の具体図と、マトリクスの用意をする。	◇テーマに合わせてマトリクスを作り、提案内容の根拠を記述したり発言したりしている。 ＜学習プリント・発言①＞
	4	○校内児童に給食の献立化したおきりこみの感想のアンケートをし、今までの活動を振り返る。	○校内児童の感想を基に課題の解決状況を評価できるように、課題の解決した状態の具体図とアンケート結果の用意をする。	◇おきりこみの感想を基に、今までの取組の成果を記述している。 ＜振り返りプリント③＞
	2	○専門家の話やアンケート結果からの気付きや疑問を話し合い、課題をつかむ。 課題：開発したおきりこみを、市民が食べたいようになるには、どう発信したらよいらう。	○開発したおきりこみを、市民に発信したいという思いをもてるように、専門家の話やアンケート結果を振り返る「意外だったこと」の視点を提示する。	◇今までに得たおきりこみから見た前橋市の特徴・よさを基に、これから取り組みたいことを記述したり発言したりしている。 ＜学習プリント・発言②＞
	20	○おきりこみの作り方の発信方法を調べ、計画を立てて、発信する準備をする。	○課題を解決した状態を具体的に想定できるように、市民がより食べたいくなるおきりこみの特徴・よさを整理してまとめる模造紙の用意をする。	◇おきりこみから見た前橋市の特徴・よさを基に、発信方法を記述したり発言したりしている。 ＜学習プリント・発言②＞
	4	○おきりこみの作り方を発信し、その感想を聞く。	○発信先の人の感想を基に課題の解決状況を評価できるように、課題の解決した状態の具体図の用意をする。	◇おきりこみの感想を基に、今までの取組の成果を記述している。 ＜振り返りプリント③＞
広げる	2	○1年間の取組を振り返る。	○おきりこみの追究から、前橋市への愛着の高まりを実感できるように、単元始めの前橋市への印象を記述した学習プリントの用意をする。	◇高まった前橋市への思いを記述している。 ＜振り返りプリント③＞